

2025年度 群馬県立女子大学文学部国文学科

転入学及び編入学試験

・ 出題意図

「日本語学・日本文学・中国文学（漢文学）及び日本語教育学」

問題一

問題一は、江戸時代の国学者、藤井高尚の『三のしるべ』の中巻、『歌のしるべ』から出題しました。古文の基礎的な文法や語彙の知識が身についているかどうか、また、そうした基礎的な知識を応用して文脈を読み解き、筆者の和歌観を理解することができたかどうかを問いました。

問題二

問題二は近代の文学史についての問題で、「正岡子規の文学活動」「新感覚派」を問いました。それらについて十分な知識を持ち、明治、大正、昭和にかけての文学史の流れを踏まえた上で、適切に説明できるかどうかを問いました。

問題三

問題三は日本語学についての問題です。日本語学の基礎研究に関わる基本的な事項を理解し、かつ、日本語の言語事象を具体的にとらえて、それらを的確に説明することができるかどうかを問いました。

問題四

問題四は、幕末・明治の文学者・ジャーナリスト、成島柳北の『柳北遺稿』から出題しました。日本漢文は、「近代以降にあっても、古典の表現の特色を継承した優れた作品や文章も含む」、と平成三十年告示「学習指導要領」にはあります。まず「動」、「固」、「道」、「然」といった、漢文読解において基本的な語に関する知識が問われます。次に『枕草子』第二八〇段等で知られる、「香炉峰の雪は簾を撥げて看る」という句について、文学史上の知識を問いました。最後に、文脈を正確に読み取る力を測りました。

問題五

問題五は日本語教育学についての問題です。日本語教育に関する基礎的な知識を持っているかどうか、また、それらについて具体的な事例を示しながら説明できるかどうかを問いました。